



オール広島での放射線被ばく者医療国際協力

放射線被曝者医療 国際協力推進協議会

Hiroshima International Council for Health
Care of the Radiation-exposed (HICARE)



広島から世界へ



チェルノブイリ原子力発電所事故の被害の実態が明らかになったことを契機に、1991年、広島県内の被爆者医療・研究機関と広島県・広島市が共同でHICARE(ハイケア)を設立しました。

広島の医療専門家が世界各地の医療機関や研究機関とのネットワークを構築し、広島の有する被爆者の治療や放射線障害の研究成果を、研修やセミナー、国際シンポジウムを通して発信しています。

さらには国際機関との協働など被ばく者医療への一層の貢献に努めています。

広島がより一層世界の皆さまのために貢献できることを願って



HICAREの目指す姿

国際機関と協働した
HICAREによるオール広島での新たな国際貢献の推進

I

被ばく者医療の
国際的人材育成・
情報発信拠点

II

国際原子力機関
(IAEA)
とのネットワーク

III

広島を支える
後継者の
育成拠点

■ 目的

HICAREは、人類で最初に原子爆弾による惨禍を被った
広島が有する被爆者医療の実績や放射線障害の調査研究の成果を生かし、
世界の被ばく者への医療に貢献することを目的としています。

■ 組織

放射線被曝者医療国際協力推進協議会 (HICARE)

広島の原爆放射線の医療・研究に関わる8つの機関と2行政機関の連合体



■ HICAREの4つの活動フィールド

- 放射線の人体への影響
- 放射線事故や災害への医療対応
- 先進的放射線治療
- 在外広島・長崎原爆被爆者医療援護

HICAREの活動

1 医師等の受入研修

広島に蓄積された被爆者医療に関する知識と経験を世界の被災地で被ばく者医療に役立ててもらう目的で海外からの医師等の受入研修を行っています。また、HICAREが単独で行うもの、国際原子力機関(IAEA)と協働で行うものの他、国際協力機構(JICA)など他機関とも協働して実施しています。

■ 受入実績

- HICARE単独 20カ国 615人
 - IAEAとの協働 29カ国 222人
 - その他 980人
- 合計38カ国 1,817人 (2024年3月現在)



■ 受入研修機関

広島大学病院
放射線影響研究所
広島赤十字・原爆病院

広島大学原爆放射線医科学研究所
広島原爆障害対策協議会
広島原爆被爆者援護事業団 など



■ 研修内容

放射線の健康影響
原爆被爆者の健康管理
放射線事故や災害への医療対応
被爆者援護施策
広島平和記念資料館視察
広島赤十字・原爆病院訪問
原爆養護ホーム訪問



2 医師等専門家の派遣

世界の被災地で放射線被ばく者の医療に関する技術指導、医療情報の提供などを行うため、医師等専門家を派遣しています。

また、広島・長崎の被爆者が在住する国々において医師等医療従事者を対象に、現地での研修会を開催しています。

■ 派遣実績

- これまでに、ロシア、カザフスタン等のヨーロッパやアジア、北米、中南米の16カ国に、204人の専門家を派遣してきました。(2024年3月現在)
- 国内においても、1999年に茨城県東海村で発生した臨界事故、2011年に東日本大震災に伴って発生した福島第一原子力発電所の事故に対して、住民の被ばく線量の測定等を行うため、医師、看護師、技術者等を派遣しました。
- HICAREの構成機関もそれぞれの特長を生かして医師等専門家を派遣し、オール広島での医療支援を継続しています。



■ 派遣目的

- 技術指導 チョルノービリ、ベラルーシ、カザフスタン、福島県
- 国際会議等への出席
チョルノービリ原発事故関連会議、緊急被ばく医療準備ネットワーク(WHO REMPAN)会議、IAEA国際会議等
- 在外被爆者現地医療研修会の開催
ブラジル(サンパウロ、クリチバ)、アメリカ(ロサンゼルス、サンフランシスコ、シアトル、ホノルル)、韓国など



3 普及啓発活動

放射線被ばく者医療に関する国際協力推進の意義と必要性を啓発するため、普及啓発活動を行っています。

■ 講演会等

主な事例

- 被爆75年・HICARE設立30年・福島事故10年国際シンポジウム
- 国際シンポジウム(HICARE15年、20年、25年、被爆50年、70年)
- チョルノービリ及びセミパラチンスクに関する報告会・講演会
- 緊急被ばく医療体制シンポジウム
- 放射線の知識に関する一般向け講演会
- IAEA協働センター指定記念式典及びセミナー



■ 出版事業

1992年に、広島・長崎における被爆者医療の英知が集大成された医療解説書「原爆放射線の人体影響 1992年」を出版しました。

また、その後の原爆放射線の後障害に関する研究の進展を背景に2012年には新しい知見と研究成果を盛り込んだ「原爆放射線の人体影響 改訂第2版」を出版しました。

さらに最新の研究成果をもとに要約英語版である「Handbook on Effects of A-bomb Radiation」を2017年に、電子書籍化しました。



◀ ホームページで
情報を発信しています。

HICARE



4 新たな展開

より一層の国際貢献を目指してIAEAとの協働を進め、また、次世代の人材育成にも取り組んでいます。

■ IAEAとの協働

2010年8月6日に、HICAREはIAEA（国際原子力機関）と、国際平和と安定に貢献することを目的に「覚書」を交わしました。その後、2014年5月に「放射線の影響と人の健康に関わる人材の育成」の事業分野において、IAEA協働センターの指定を受けました。

- 次の3つの分野でIAEAと協働した国際医療研修、共同研究等を行っています。
 - 放射線の人体への影響
 - 放射線事故や災害への医療対応
 - 先進的放射線治療
- IAEA技術協力プログラムによる研修の実施
IAEA（故天野之弥事務局長）からの要請により、発展途上国のがん治療の向上のため、IAEAのプログラムによる放射線治療チームの受入研修を実施しています。



■ 次世代の人材育成

- 医学生へのIAEA派遣
広島の有する被爆者医療の実績と研究の成果を継承・発展させる国際的な視野を持った人材育成を目的に、医学生をIAEAヘインターンとして派遣しています。
- 高校出前講座
広島の被爆者医療と研究における国際貢献の取組を伝え、志を持って世界に貢献する次世代を育成するため、被爆者医療と研究の第一人者による高校生を対象とした出前講座を実施しています。





<http://www.hicare.jp/>

**放射線被曝者医療国際協力推進協議会
(HICARE)**

Hiroshima International Council for
Health Care of the Radiation-exposed (HICARE)

[事務局] 広島県健康福祉局被曝者支援課内

〒730-8511 広島県広島市中区基町10-52 県庁本館

TEL:082-228-9901 FAX:082-228-3277

E-mail: hicare1991@hicare.jp
